

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023	開講キャンパス	都城	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	教科教育法（図画工作）				授業形態	講義			
科目コード	750096	単位数	2	配当学年	1	実務経験教員担当	○	アクティブラーニング	○
教員氏名	園田 博一								
授業概要	<p>本授業では、図画工作科の目標や内容構成を踏まえながら、児童の造形的な能力の発達に即した実践的な指導力を身につけていくことをねらいとする。大人のスキルとして、制作実践から図画工作科で使用する基本的な材料・用具の扱いの習熟をはかるとともに、年齢ごとの子どもの作品の鑑賞を通して、児童作品の見方や考え方を学修する。また教師個人の好みや、美的感覚を強制するような指導観・教材観ではなく、子ども一人ひとりの表現の違いを認め、豊かな心で創作活動が展開できる指導法を考える。小学校の現場では指導が多くなると、指示待ちの児童が増える傾向がある。指導が援助であることと、児童に考えさせることが創造的な展開になることを踏まえ、子どもの視座で共有する力を身に着ける学修を目指す。</p>								
関連する科目	保育内容指導法（造形表現） 図画工作 図画工作演習 子どもと手作り遊び を履修することが望ましい。								
授業の進め方と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における、図画工作科の目標と内容を学修する。 ・子どもの表現を理解し、発達段階の理解につなげる。 ・図工の基礎実習を通して、表現する楽しさを体感する。 ・図画工作科における多様な表現を体験し、表現の幅を広げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術を駆使し、授業で作られた作品は写真で記録する。 ・インターネットなどを活用して、資料・情報などの収集を図る。 								
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、授業者紹介、自己紹介、図画工作の概要 ・コミュニケーションを大切に、相互理解に努める。</p> <p>第2回 図画工作科における学び ・図画工作科教育の意義と目標 ・主体的・対話的学びについて</p> <p>第3回 学習指導要領の構造 ・造形的な見方・考え方について ・図画工作科で学ぶ資質・能力について</p> <p>第4回 「造形遊びをする活動」とこどもの姿 ・造形遊びに取り組む子供の姿をビデオを使って視聴する。</p> <p>第5回 「造形遊びをする活動」の指導のポイント、活動例を視聴する。 ・オリジナルな遊びを創造する。</p> <p>第6回 「絵に表す活動」とこどもの姿 ・描画表現に関する体験、指導のポイント</p> <p>第7回 「立体に表す活動」とこどもの姿 ・彫刻に関する体験、指導のポイント</p> <p>第8回 「工作の活動活動」とこどもの姿 「工作の活動活動」の指導のポイント</p> <p>第9回 「鑑賞の活動活動」とこどもの姿 「鑑賞の活動活動」の指導のポイント</p> <p>第10回 指導計画の作成 ・学習指導案の作成</p> <p>第11回 意欲を引き出す、授業のポイント、指導の工夫</p> <p>第12回 伝統や文化に関する教育と図画工作</p> <p>第13回 図画工作科における教科書・美術館の活用 ・図画工作科教育の時代的変遷について</p> <p>第14回 造形遊びをする活動について ・低学年～中学年～高学年 ・身近な素材を使って、室内、屋外へと表現活動の広がりをもとめて。</p> <p>第15回 図画工作科の目標及び内容について ・世界的・社会的視野での図画工作研究 学びの広がり。</p>								

授業の達成目標	1. 学習指導要領の目標内容を踏まえ、発展的に試行していく。 子どもの表現を理解し、発達段階の理解につなげる。【知識・理解の獲得】 2. 図工の基礎実習を通して、表現する楽しさを体感する。【コミュニケーションスキルの育成】 3. 図画工作科における多様な表現を体験し、表現の幅を広げる。ICTの活用をはかる。【生涯学習力の育成】										
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を活用する能力	(1)	○	(2)	○						
	2. 汎用的技能を応用し活用する能力	(1)	○	(2)							
	3. 人間力、社会性、国際性の涵養	(1)	○	(2)		(3)		(4)		(5)	○
授業時間外の学習	【予習】 授業で使用する、材料、道具の準備を必ず行うこと。 ・えのぐ、クレヨン、紙など										
	【復習】 経験したことを実際の生活の中で再現してみるとよい。試行錯誤を繰り返しながら、自分のものとしてほしい。										
課題に対する フィードバック	造形表現と図画工作との関連の理解を深め要約のレポートを評価する。図画工作教育の方法や小学校指導要領について、必須要点をまとめレポートする。実技実習は到達度レベルを示し評価する。										
評価方法・基準	・実技課題への積極的取り組み、提出課題の評価及びレポート等、提出物の採点による方法でその割合は、授業中の参加態度（質問や発問を含む制作意欲）：40%、提出課題：30%、レポート：30%とする。										
テキスト	・『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』 編者新野貴則 福岡知子 萌文書林 2750円 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 文部科学省 日本文教出版 110円 大学生協で販売										
参考書	『芸術による教育』ハーバード・リード 『チゼックの美術教育』w・ヴィオラ著（黎明書房） 『美術による人間形成』ローエンフェルド』ローエンフェルド 『保育内容「表現」』平田智久・小林紀子・砂上史子編 ミネルヴァ書房： 2200円										
備考	※受講生は、実技演習ができる服装が望ましい。（準備内容については、事前に予告する。）										